



AirCheck G2 簡単操作マニュアル



AirCheck G2の基本的な操作ができるようになります

(このマニュアルは簡易日本語版ですので、詳細はAirCheck G2本体及び英文マニュアルをご覧ください)

V 4.0版
NetAlly
東洋計測器株式会社

目次

	ページ
1. はじめに	2
2. 電源を入れる	3
3. ホーム画面	4
4. ネットワーク	6
5. チャンネル	8
6. アクセス・ポイント	9
7. クライアント	12
8. 干渉源	14
9. 自動テスト	15
10. イーサネット・テスト	17
11. 困った場合には	18

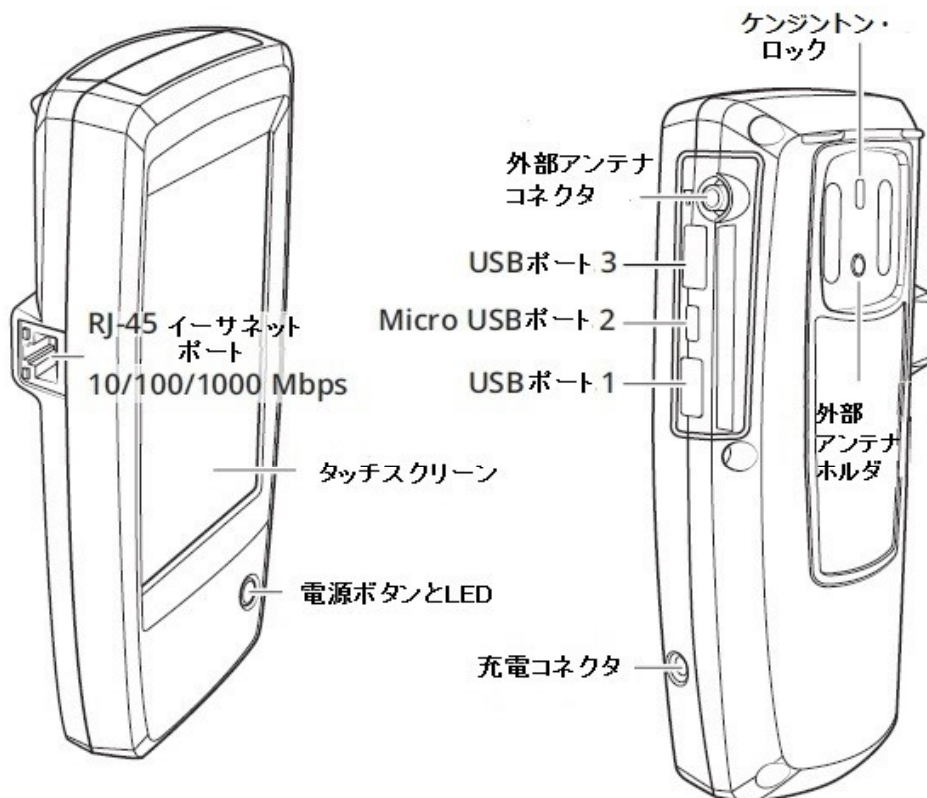
1. はじめに

ご購入後初めてお使いになる場合、またはバッテリーが少なくなっている場合には付属の充電器を用いて、3時間ほど充電します。

充電不足の場合には、充電の際に本体右下の電源ボタンのLEDが赤く点灯します。充電が完了すると、消灯します。

電源を入れると、本体表示部右上にバッテリー量の表示が出ます。

AirCheck G2の外観



2. 電源を入れる

本体右下の電源ボタンを長押しすると、電源が入ります。



表示部には次のように出る場合があります。



初めての方は、以下をスキップして下さい。

スキップ



これは、NetAllyのクラウド・サービス Link-Liveを設定し、アクセスするものです。テスターのLink-Liveへの登録や使い方については、別刷「Link-Liveのご案内」をご覧ください。Link-Liveを使用しない場合には、OKをタッチして下さい。

このメッセージをこれ以降表示させないためには、「今後このメッセージを表示しない」の□に✓を入れて、OKにタッチして下さい。

すると次のホーム画面になります。

3. ホーム画面

3-1) ホーム画面は次のようになります。



リフレッシュ

それまでのデータを破棄し、現在の測定を再スタートします。



保存

測定データをセッションファイルに保存します。

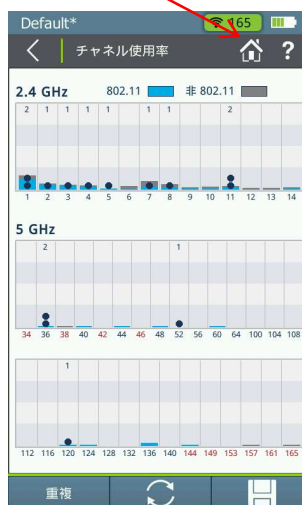


設定

AirCheck G2の表示、編集、保存できます。



ホーム画面でない場合には、以下の表示になり、ホームマークをタッチすることによってホーム画面に戻ります。



3-2) ホーム画面(続き)



プロフィール名
プロフィールには測定の設定が保存されています。
独自の設定に名前を付けて保存したり別なプロフィール
を読むこともできます。



送信インジケータ

AirCheck G2がアクティブにデータを送信している時に
点灯します。



スキャンインジケータ

AirCheck G2がスキャンしている無線LANのチャンネルを
リアルタイムで表示します。



バッテリーインジケータ

バッテリーの充電状況が表示されます。
残量が少なくなるとアイコンが赤に変わります。



測定タイトル

現在の表示がどこであるか表示します。



ヘルプ

現在の測定に関するヘルプを表示します。
操作を知りたい時に使用します。
この？を1秒以上長押しすると、現在の画面の
スクリーンショットをとることができます。
とったスクリーンショットは、AirCheck G2 Managerか
Link-Liveから抽出することができます。

ホーム画面の表示項目

ホーム画面で、表示項目をタッチするとそれぞれの画面に移動します。

ネットワーク

ネットワーク表示の画面に移動します。

チャンネル

チャンネル表示の画面に移動します。

アクセス・ポイント

アクセス・ポイント表示の画面に移動します。

クライアント

クライアント表示の画面に移動します。

干渉源

干渉源測定の画面に移動します。

自動テスト

自動テストの画面に移動します。

イーサネットテスト

有線イーサネットテストの測定に移動します。

4. ネットワーク

4-1) 表示部

ネットワーク名を表示しています。

Wi-Fiの電波強度(-dBm)を表示します。
値が大きいほど(例:-30dBmは-50dBmより大きい)
信号が強いことを表します。
-90dBm以下はノイズに近く、-100dBmは最小です。

セキュリティの状態を示します。(6-1にて説明)
🔒 セキュリティ付
🔓 セキュリティなし(オープン)

ネットワーク内のアクセス・ポイント数

Wi-Fiの電波のSN比(S/N)
SN比=(信号の強度)-(ノイズ)を表し
数字が大きいほど通信状態が良いことを示します。

4-2) ソーティング

ソート:
信号強度

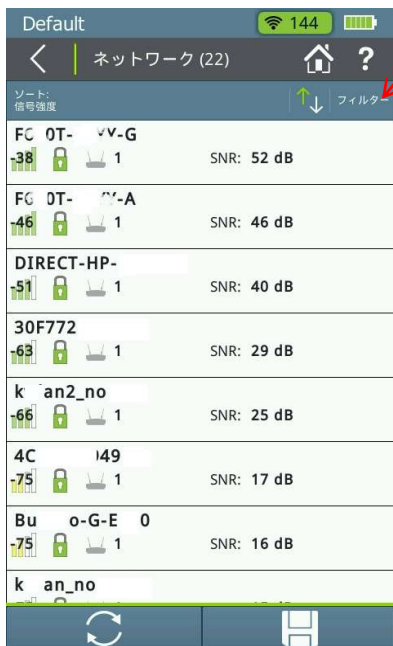
表示する順序を並べ替えます。
ソート・XXXXをタッチすると選択画面に切り替わります。
(この画面では、信号強度でソーティングされています)

ソーティング画面は下の通りで、項目右側から選択し
適用(変更した場合)またはキャンセル(変更しない)を
タッチします。元の画面に戻ります。

この矢印をタッチすると、大小等の順序が入れ替ります。

Default	
<	ネットワークのソート方法: 家 ?
SSID	<input type="radio"/>
AP カウント	<input type="radio"/>
信号強度	<input checked="" type="radio"/>
SNR	<input type="radio"/>
セキュリティ	<input type="radio"/>
802.11 タイプ	<input type="radio"/>
クライアント・カウント	<input type="radio"/>
帯域	<input type="radio"/>
最終検出	<input type="radio"/>
キャンセル 適用	

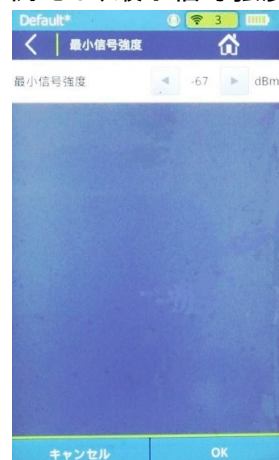
4-3) フィルター



画面のフィルターをタッチすると、下記のフィルターの画面に変わります。



例えば、最小信号強度でフィルターして最小強度を選択します。



802.11タイプでフィルターすると



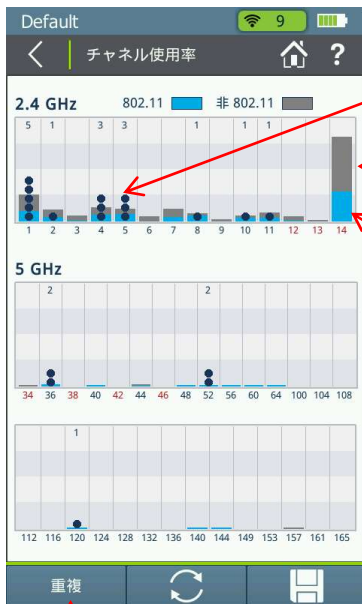
選択後は、画面右下のOKまたはキャンセルをタッチします。

フィルターが選択されている場合には、画面右側に赤いX印が表示されますので注意して下さい。

フィルター機能をクリアするには、設定したフィルターを元に戻します。

5. チャネル

チャネル表示では、すべてのチャネルの使用率を表示します。(設定でオフにした場合は出ません)

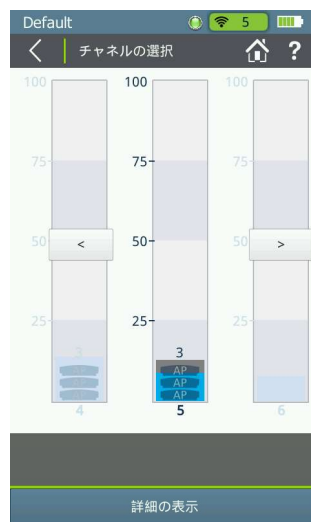


● そのチャネルにあるAPの数

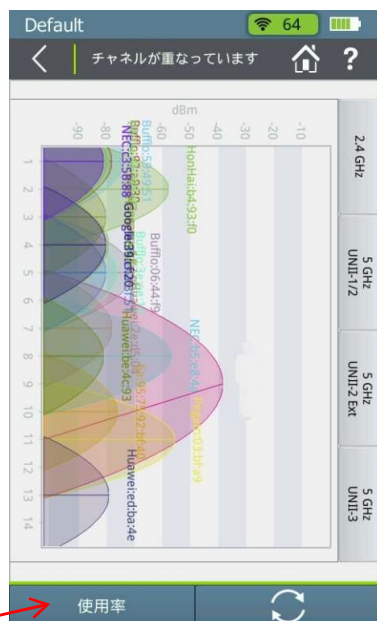
■ そのチャネルにおける非Wi-Fi信号の時間当たり使用率

■ そのチャネルにおけるWi-Fi信号の時間当たり使用率

一つのチャネルをタッチすると、詳細が表示されます。



重複をタッチすると、下記のように重複の度合いが表示されます。



使用率をタッチすると戻ります。

6. アクセス・ポイント

6-1) アクセス・ポイント画面 スキャンしたアクセス・ポイントの一覧が表示されます。



AP名またはBSSID(MAC)が表示されます。

信号の強度が表示されます。

例：-37(dBm)は、-42(dBm)より強い(大きい)

セキュリティ

- オープン
- WPA/WPA2/EAP
- WEP
- 2つ以上のセキュリティ・タイプ

SNR (S/N比)

信号の強さ(S)とノイズ(N)の比 (dB)

大きいほど信号の品質は良い(信号が強く、ノイズが小)

チャンネル

APが使用しているチャンネルが表示されます。

一つのAPをタッチすると、選択されたAPの情報が以下のように表示されます。

SSIDを表示



BSSIDを表示

信号強度をアンテナ数のイメージで表示

信号強度をバーと数値で表示

ノイズ・レベル: ノイズの大きさ

SNR : 信号の強さ(S)とノイズ(N)の比 (dB)

セキュリティ

802.11タイプ

APがどのタイプをサポートしているかを表示

サポートしているレート

基本レート

認証の表示

画面を下にスクロールすると

クライアント数

使っている帯域や、チャンネル、最終検出した時間、802.11n性能などが表示されます。

基本レート (Mbps)	1, 2, 5.5, 11
認証	なし
クライアント	0
帯域	2.4 GHz
チャンネル	11P, 40 MHz, 7-11
最終検出	0 秒 前
802.11n 性能	▼

6-2) 位置特定

アクセス・ポイントの画面の左下の「位置特定」とタッチすると、APの位置特定画面になります。



このAPを最終検出した時間が表示されます

APの信号の強度を、メータ表示します(dBm)。

APの信号の強度を、時間表示します。横軸が時間経過。

検出したAPの信号の強度を表す音をミュート(消す)する時にタッチします。

AirCheck G2に指向性外部アンテナを使う際にタッチします。

検出したAPの信号の強度を表す音を出す時にタッチします。

AirCheck G2の内部アンテナを使う際にタッチします。(指向性外部アンテナは使いません)

6-3) 接続



APと接続する場合には、「接続」をタッチして下記画面になります。
セキュリティやパスワードを入力し、「適用」をタッチします。
詳細は、取扱説明書またはAirCheck G2の？にて本体で確認してください。



6-4) キャプチャ

アクセス・ポイントの画面の右下の「キャプチャ」をタッチすると、下記のようにキャプチャ画面になります。

ファイル名やファイルサイズ、チャンネルを設定し、「開始」をタッチすると、キャプチャを開始します。

キャプチャを終了するには、「停止」ボタンをタッチして終了しますが、測定したファイルは「ファイルの管理」でUSBに保存あるいはLink-Liveに保存します。
詳細は、取扱説明書またはAirCheck G2の？にて本体で確認してください。

Default*	
ファイル名	cap_20200421_100330
ファイルサイズ	100 MB
チャンネル	11
BSSID/MAC	cc:18:18:07:07:00
コントロール フレーム	オン
データ フレーム	オン
管理フレーム	オン
キャンセル	開始

7. クライアント

7-1) クライアント画面

スキャンしたアクセス・ポイントの一覧が表示されます。



クライアント名またはMACアドレスが表示されます。

信号の強度が表示されます。

セキュリティ

- 🔓 オープン
- 🔒 WPA/WPA2/EAP
- 🔒 WEP
- 🔒 2つ以上のセキュリティ・タイプ

チャンネル

クライアントが使用しているチャンネルを表示します。

AP名

クライアントが使用しているAP名を表示します。

以前に検出して、その後検出できなくなったクライアントの背景はグレーになります。

任意のクライアントをタッチすると、その情報が以下のように表示されます。



クライアント名またはMACアドレスが表示されます。

信号強度をアンテナ数のイメージで表示

信号強度をバーと数値で表示

接続しているSSIDを表示します。

接続しているAP名を表示します。

接続しているAPのBSSIDを表示します。

接続レートを表示します。

セキュリティ

接続できるメディアタイプ

使用している帯域

使用しているチャンネル

最終検出した時間

7-2) 位置特定

アクセス・ポイント画面 (P.9) 左下の「位置特定」とタッチすると、クライアントの位置特定画面になります。



このクライアントを最終検出した時間が表示されます

クライアントの信号強度を、メータ表示(dBm)します。

クライアントの信号強度を、時間表示します。
横軸が時間経過です。

これらは、アクセス・ポイントの説明と同じです。

7-3) キャプチャ

クライアントの画面の右下の「キャプチャ」をタッチすると、下記のようにキャプチャ画面になります。

ファイル名やファイルサイズ、チャンネルを設定し、「開始」をタッチすると、キャプチャを開始します。

キャプチャを終了するには、「停止」ボタンをタッチして終了しますが、測定したファイルは「ファイルの管理」でUSBに保存あるいはLink-Liveに保存します。
詳細は、取扱説明書またはAirCheck G2の？にて本体で確認してください。

8. 干渉源

ホーム画面で、干渉源をタッチすると以下のような干渉源の表示画面になります。

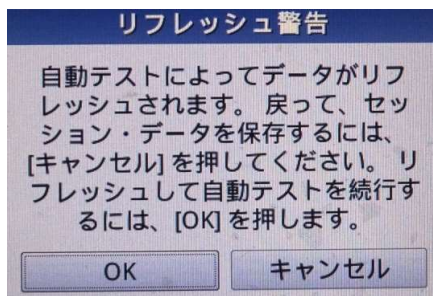


干渉源としては、Bluetooth や電子レンジなどを検出することができます。

位置特定は、アクセス・ポイントやクライアントの位置特定と同様です。
(注)位置特定をするためには、その干渉源が発生し続けてないと特定できません。

9. 自動テスト

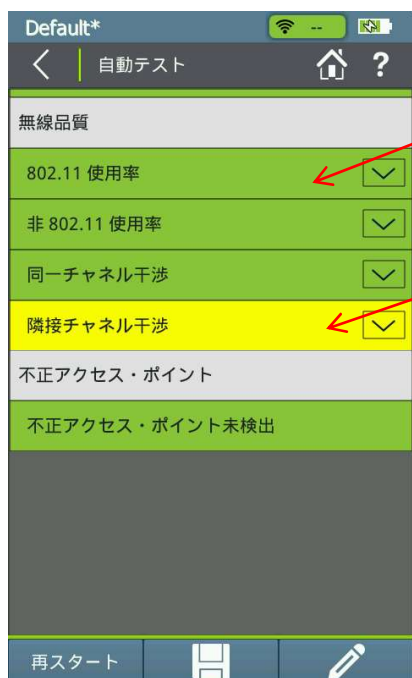
ホーム画面で自動テストをタッチすると以下のようなメッセージがでます。



自動テストは、その場所のWi-Fi環境を自動測定します。測定するスキャン回数や不正アクセスポイントの測定を行うかは「設定」で行います。

これは、それまで測定した結果を保存せずに自動テストに移行していいかの確認です。保存するためには、警告のように一度「キャンセル」してセッション・データを保存します。保存しない場合は、OKをタッチして自動テストに進みます。

自動テストに移動して、測定が終わると以下のような画面になります



測定結果に問題がなければ、それぞれの測定項目の欄が緑色になります。

少し問題があれば、黄色になります。

通信に影響を与えるような場合には赤になります。

▼などをタッチすると、それぞれの詳細が以下のようにプルダウンで表示されます。

右のように各チャンネルの使用率が表示されます。



同一チャンネルに問題がある場合には、下記のようになります。



左図では、チャンネル1と11がそれぞれ3AP、4APあるので警告、チャンネル44、36、40が10を超えるAPが存在しますので、そのチャンネルは不合格（使用に耐えない）であることを表します。

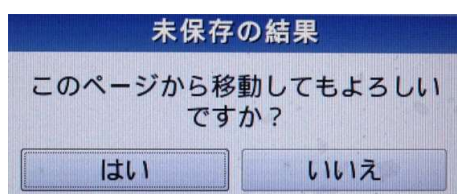
隣接干渉についても同様です。（右図）
2.4GHz帯はチャンネルが5MHz毎にありますので
隣接干渉の確認が必要です。



不正アクセスが検出されれば、ここに表示します。

この測定を繰り返すには、再スタートをタッチします

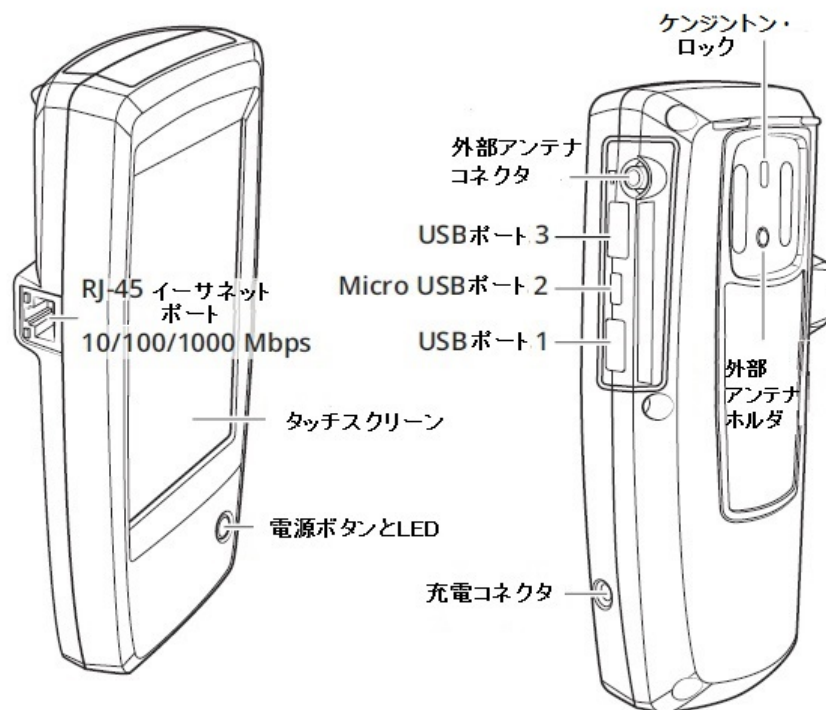
終了するには、ホームボタンを押します。
測定したセッション・データを保存せずに行うと、以下のメッセージが出ます。
保存する場合には、「いいえ」で戻り、保存をします。



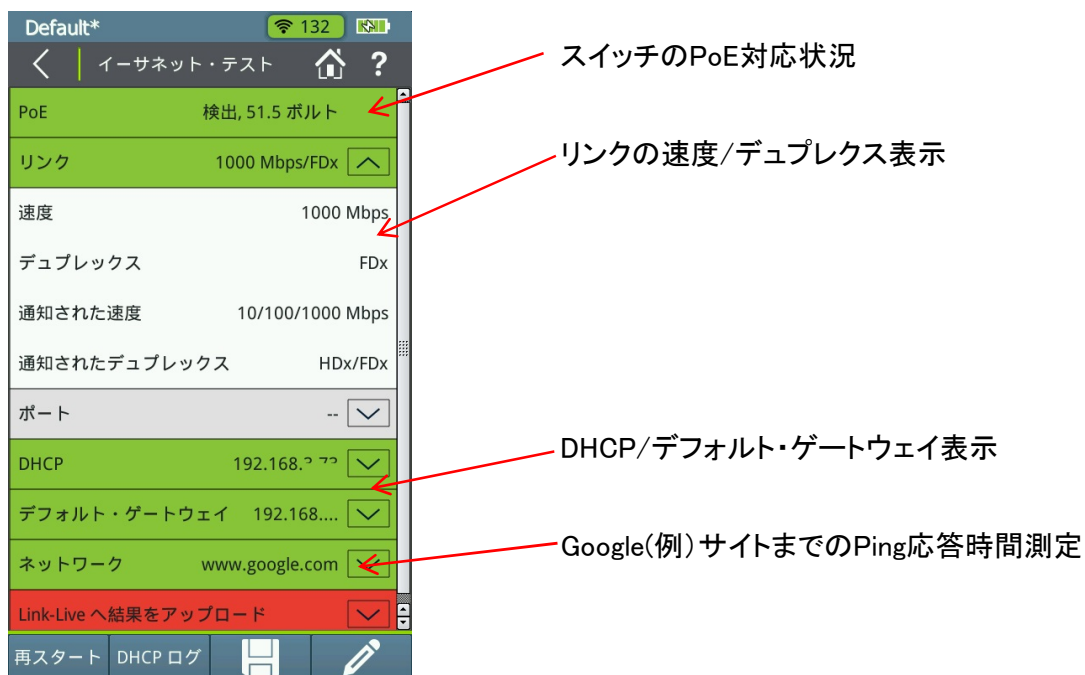
「はい」をタッチすると自動テストモードから抜けることができます。

10. イーサネット・テスト

本体側面のRJ-45イーサネット・ポートにLANの線を接続して、アクセス・ポイントに対する有線リンクについて、主要な接続パラメータを確認することができます。



LANの線を接続し、ホーム画面の「イーサネット・テスト」をタッチすると次のような画面になります。



11. 困った場合には

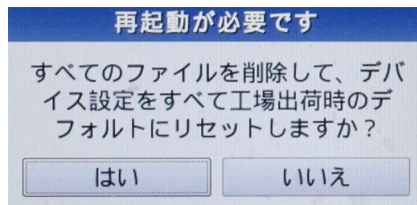
11-1) 工場出荷時の設定にするには

操作がよくわからなくなってしまうとか、誰かが設定を変えてしまったといった場合に AirCheck G2を工場出荷時の設定にしたい、ということがあります。
また、別な部門に貸し出す際に、設定をリセットしたい、ということもあります。

その様な時に必要な、工場出荷時の設定の方法です。
工場出荷時の設定にすると、英文表示・米国Wi-Fi仕様になりますので、日本語・日本仕様にする必要があります。

また、それまで測定したデータも消去されますので
必要なセッション・ファイルは事前に保存しておきます。

1. 右下の設定(歯車)ボタンを押します
2. スクリーンを下にスワイプします
3. 「デバイス設定」を押します
4. 「工場出荷時のデフォルトに戻す」を押す




5. 必要なデータが保存済みであれば、「はい」を押して進みます。
データ保存がされてなければ、「いいえ」を選び、セッションファイルを保存して
上記の1.に戻ります。

6. 再起動が始まり、英文画面でスタートします。



7. P.3の画面の英語表記ですので、「OK」を押します。
8. 英文の画面の右下の設定(歯車)ボタンを押します
9. 英文画面のスクリーンを下にスワイプします
10. Device Settingを押します
11. 上部の「English」を押し、すぐ下の「Japanese ●」を押して選択します
12. 下の「Apply」を押して、「Reboot now」で「Yes」押してリブートします
13. 右下の歯車ボタンを押し、スクリーンを下にスワイプします
14. 「ロケーション設定」を押し、右の「United States」>「Japan」を選択します
15. スクリーン下の「適用」を押します

 ホームボタンを押して終了です。

11－2) Link-Liveの使い方

別刷「Link-Liveのご案内」をご覧ください。

11－3) AirCheck G2を含むNetAlly社製品サポート情報

東洋計測器株式会社

<https://www.keisokuki-land.co.jp/support/netally/>

11－4) メールでの問合せ先

東洋計測器株式会社 NetAlly部

netally@keisokuki-land.co.jp